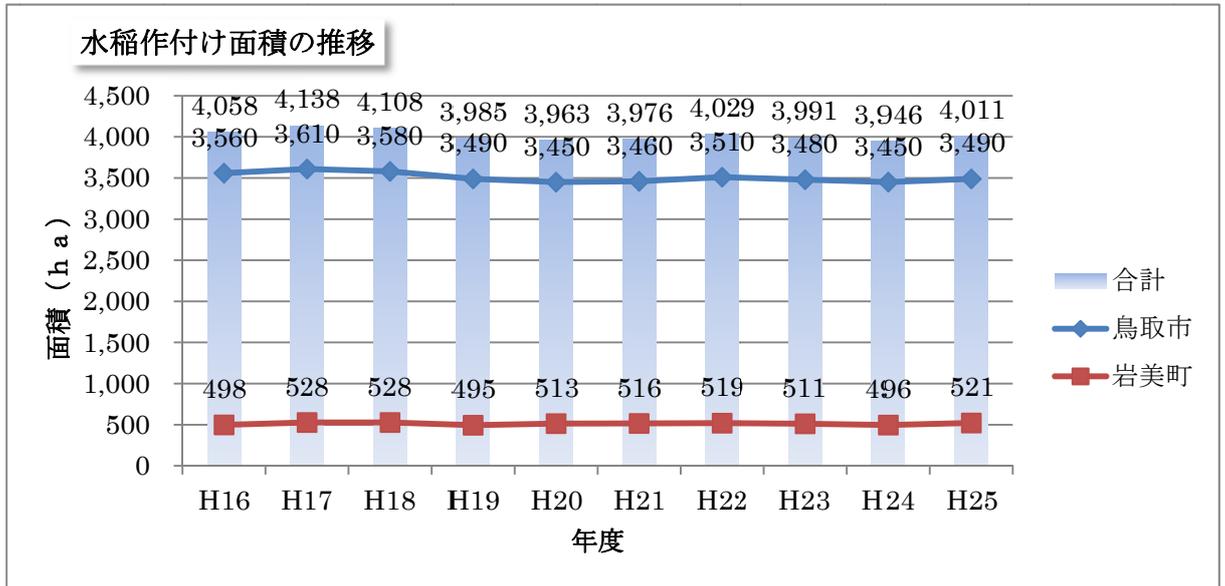


IV 主な農畜産物の生産、販売状況（※数字は特段の記載が無い場合は JA 鳥取いなば調べ）

1 水稲

(1) 作付面積

作付面積は横ばい傾向で、管内全体では約 4 千ヘクタール前後で推移している。

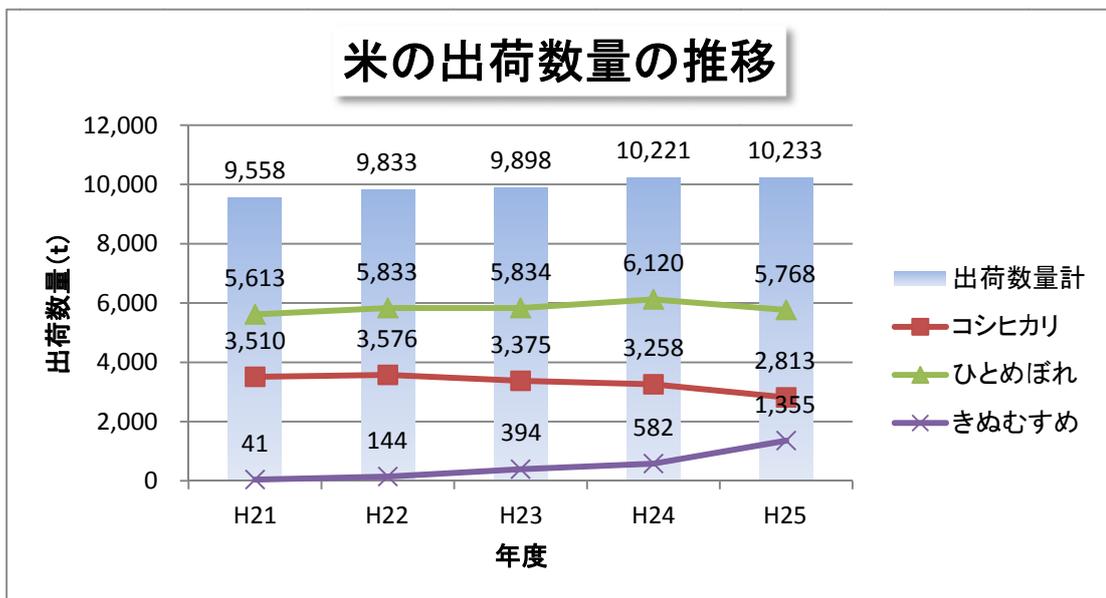


(鳥取農林水産統計年報調べ)

(2) 出荷数量

①平成 25 年度の出荷量は約 1 万トンで、ここ数年微増傾向にある。

②夏の高温で収量、品質が低下しているコシヒカリからきぬむすめへの品種転換が進んできている。



(3) トピックス

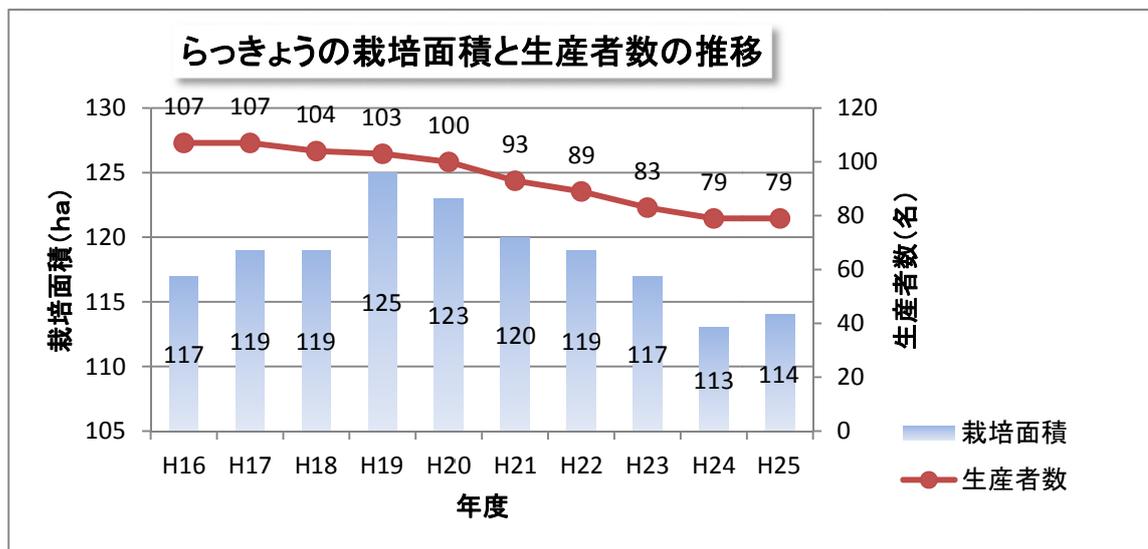
①夏場の高温によりコシヒカリの品質低下が課題となっていることから、夏の高温に強く、収量、品質が安定しているきぬむすめに品種転換する農家が増加している。

②鳥取県産のきぬむすめは日本穀物検定協会の食味ランキング（平成 25 年産）で特 A ランクを取得した。

2 らっきょう

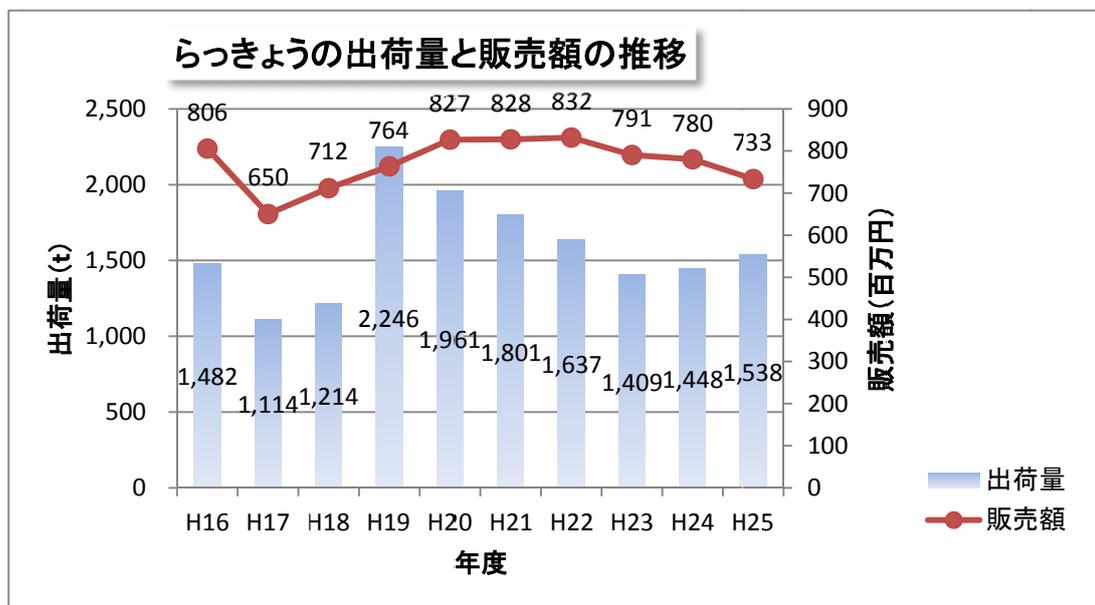
(1) 栽培面積・生産者数

- ①鳥取市福部町で栽培されている「砂丘らっきょう」は、鳥取県内の栽培面積の約6割を占めている。
- ②生産者数は高齢化に伴い、ここ10年で27パーセント減少し、平成25年度は79戸となっている。栽培面積は平成19年に微増したものの、平成25年度は10年前とほぼ同様の114ヘクタールとなっている。



(2) 出荷量・販売金額

- ①出荷量は平成19年度の大豊作を除き、ここ5年は1,400～2,000トンの範囲で推移している。販売額は平成20年度以降減少傾向にある。



(3) トピックス

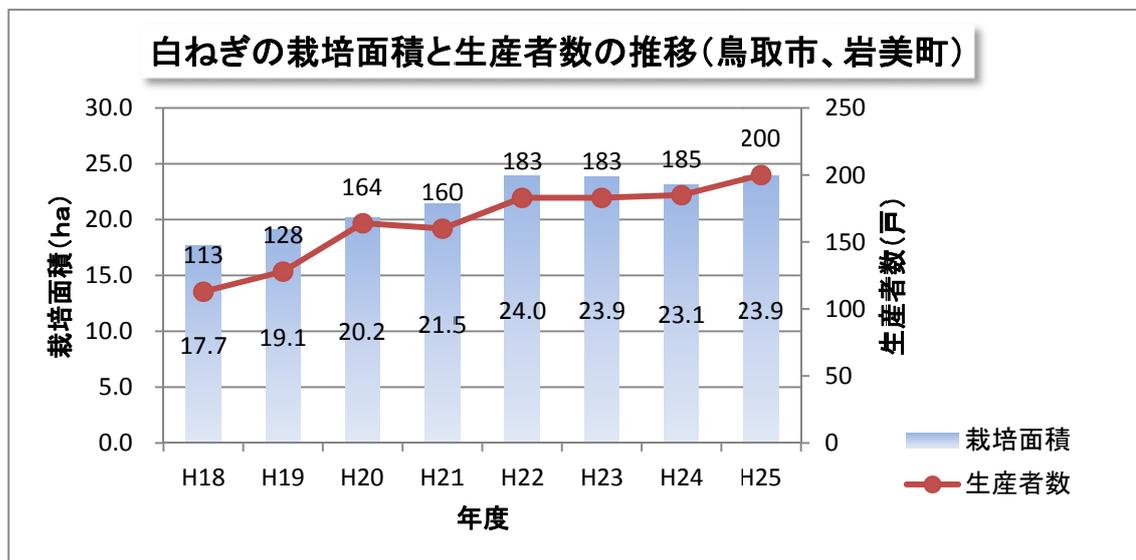
- ①平成26年度は本格的な栽培開始から100周年を迎え、新商品開発、記念誌の発行等100周年を記念した取組を実施。
- ②鳥取県はらっきょう収穫量が鹿児島県に次ぐ全国第2位を誇る。(農林水産省、平成22年地域特産野菜生産状況調査)

3 白ねぎ

(1) 栽培面積・生産者数

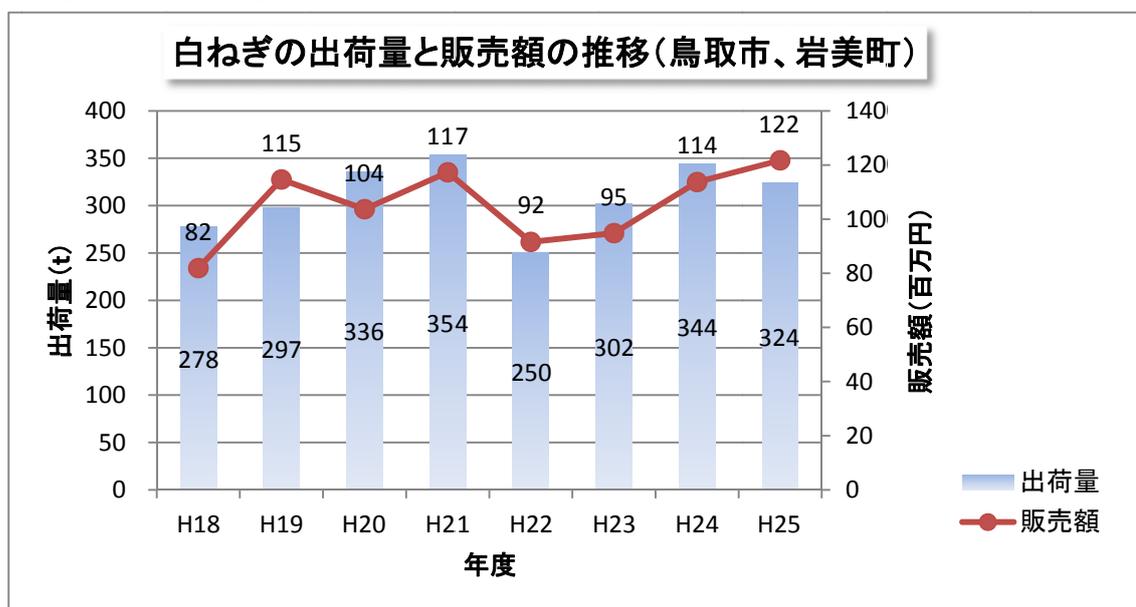
①生産者数は平成 18 年対比で約 1.8 倍となっている。栽培面積も水田転換を中心に増加し、平成 18 年度対比で約 1.4 倍となっている。

※平成 21～25 年度、JA 鳥取いなばがチャレンジプラン支援事業を活用し管理機、皮剥機等機械のリースを実施



(2) 出荷量・販売金額

①出荷量は年次変動があるものの平成 18 年度対比で約 2 割増加、販売額も約 5 割増加している。(平成 22 年度は雪害により減収)



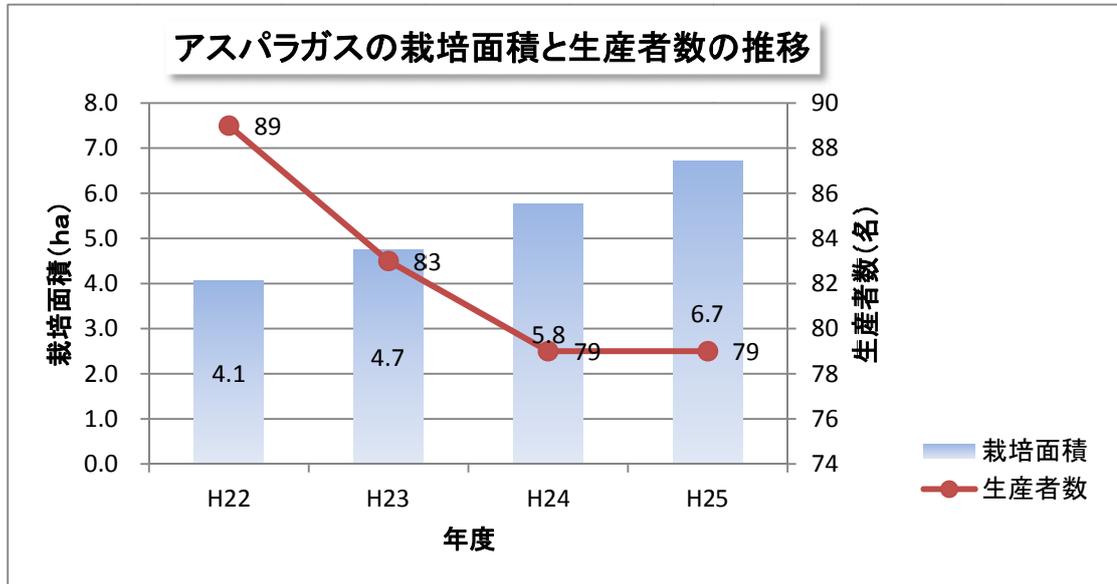
(3) トピックス

①JA 鳥取いなばが地域プラン事業を活用して関係機関と協力しながら「白ねぎ倍増プラン」を平成 25 年度に策定、平成 30 年度には現在の面積(八頭管内含む)約 40 ヘクタールを倍の 80 ヘクタールへ増加することとしている。

4 アスパラガス

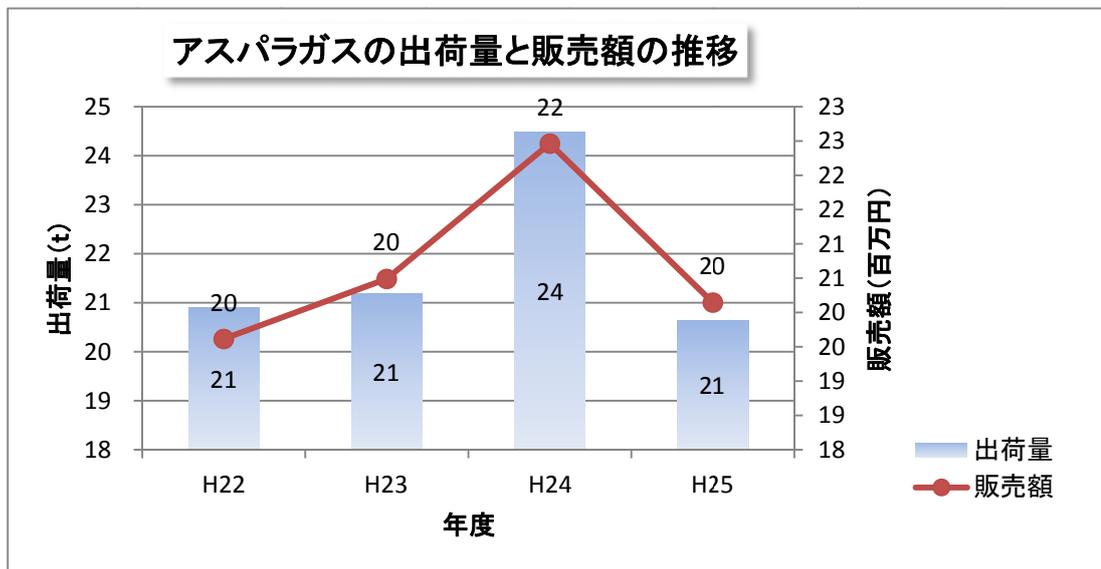
(1) 栽培面積・生産者数（八頭管内含む）

①栽培面積は平成25年度で6.7ヘクタール、ここ数年は毎年約1ヘクタール増加している。一方、栽培者数は減少傾向にある。



(2) 出荷量・販売金額（八頭管内含む）

②ここ4年間では、出荷量は20トン、販売額2千万円前後で推移している。



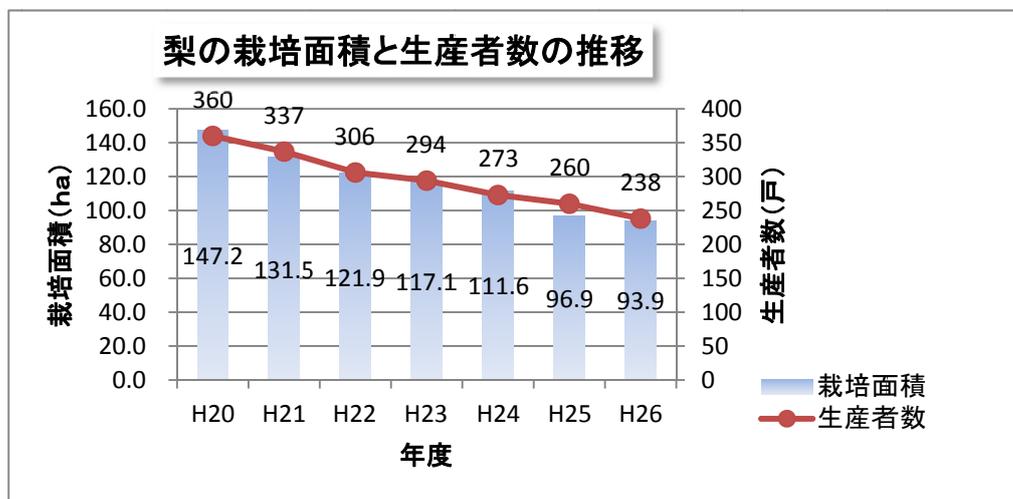
(3) トピックス

①毎年約1ヘクタール面積が増加、らっきょう、白ねぎに次ぐ特産品として育成するため、平成26年度より関係機関でプロジェクトチームを設置し、一丸となって推進していくこととしている。

5 梨

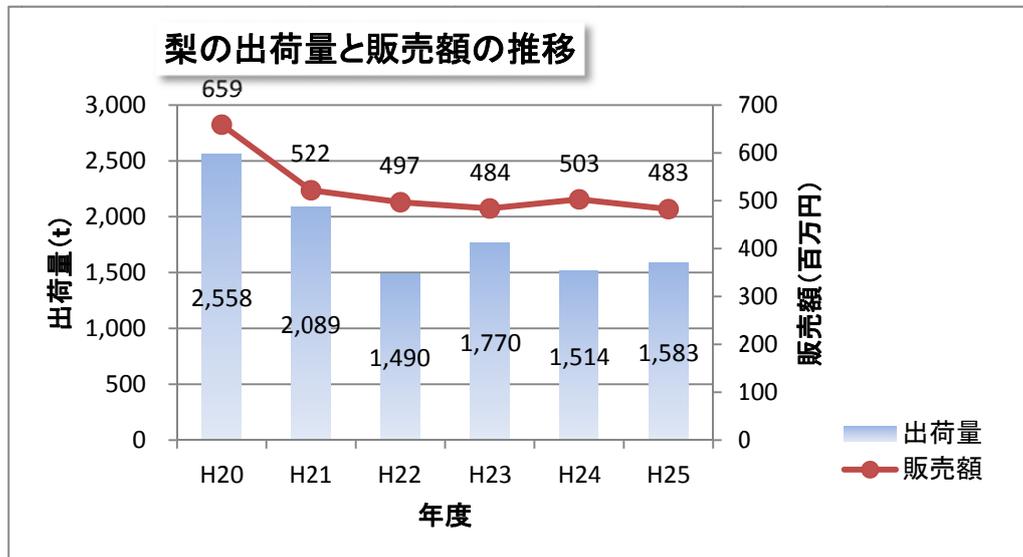
(1) 栽培面積・生産者数

①平成26年度の栽培戸数は238戸、高齢化や販売単価の低迷等もあり、ここ5年間で約100戸減少している。それに伴い5年間で栽培面積も約3割減少した。



(2) 出荷量・販売金額

①ここ5年間の出荷量は1,500トン前後、販売額は5億円前後で推移している。栽培戸数、面積は全体的に減少しているものの収量、販売価格が高い新品种への転換が進んでいることから横ばいとなっている。



(3) トピックス

①現在、二十世紀梨が主流であるが、新甘泉を中心に新品种の導入が進んでいる。

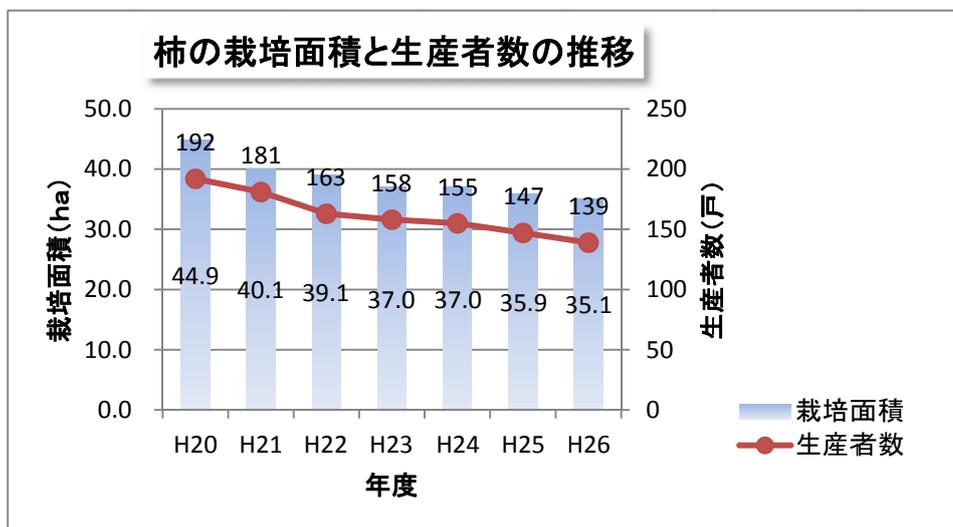
	H18～H22	H23	H24	H25	合計
新品种苗木本数	536	1,002	1,041	3,862	9,681
うち新甘泉	306	645	527	2,393	5,474

※JA鳥取いなばが管内農家へ配布した本数

6 柿

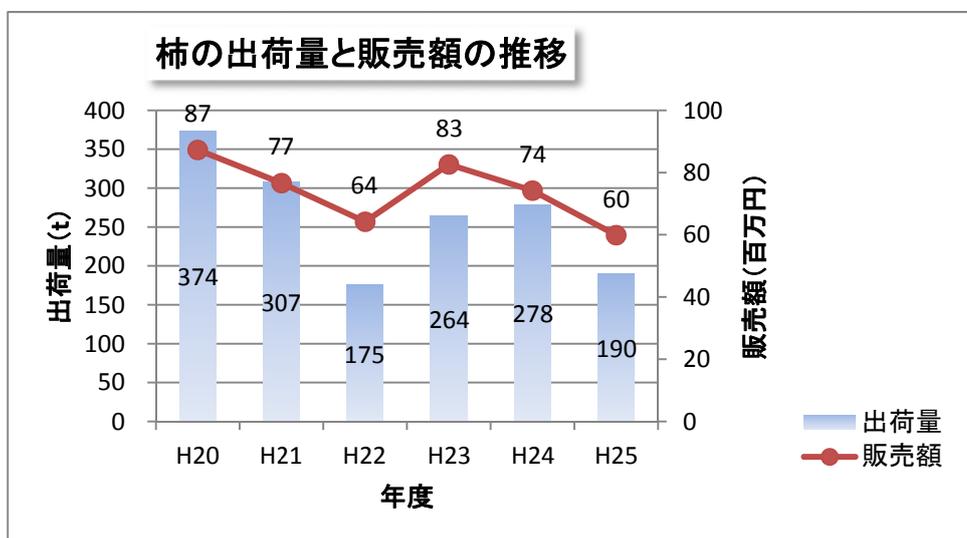
(1) 栽培面積・生産者数

- ①梨同様、生産者の高齢化等により、生産者数、栽培面積ともに減少傾向にある。
- ②平成 26 年度の生産者数は 139 戸、栽培面積は 35 ヘクタールで、ここ 5 年間で生産者数で 25 パーセント、栽培面積で 13 パーセント減少している。



(2) 出荷量・販売金額

- ①平成 26 年度の出荷量は 60 トン、販売額 1 億 9 千万円である。
- ②平成 22、25 年度は霜害により出荷量、販売額とも減少した。



(3) トピックス

- ①現在、富有、西条柿が中心であるが、収量、品質、販売単価の高い新品種「輝太郎」の植栽が進んでいる。

	H 2 1	H 2 2	H 2 3	H 2 4	H 2 5	合計
輝太郎苗木本数 (本)	264	937	387	277	712	2,577

※JA 鳥取いなばが管内農家へ配布した本数

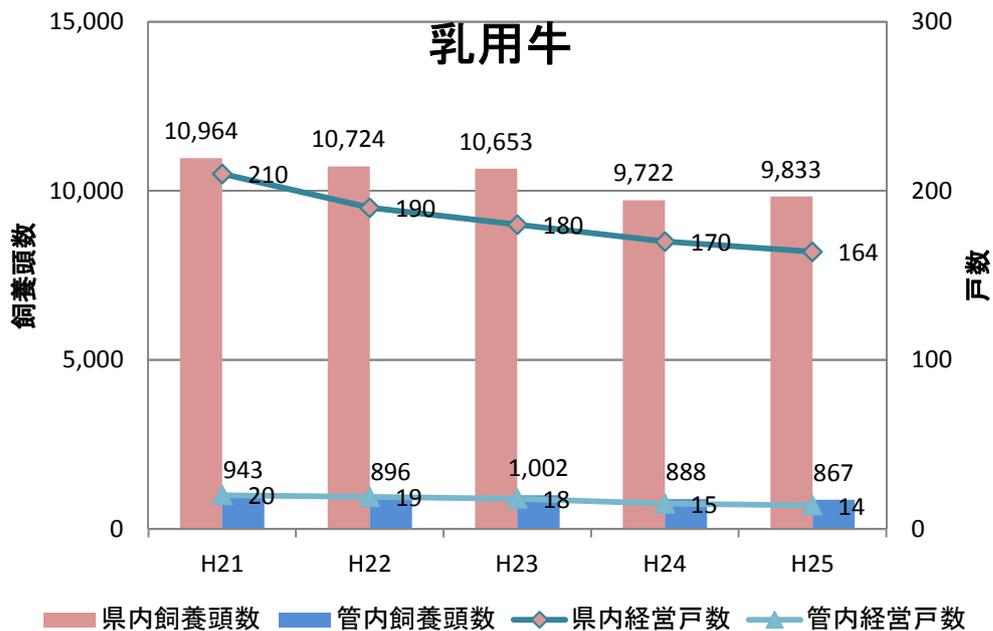
7 乳用牛

酪農経営においては、管内では全県の10%弱を占め、小規模農家の廃業があり、昨年から1戸減少

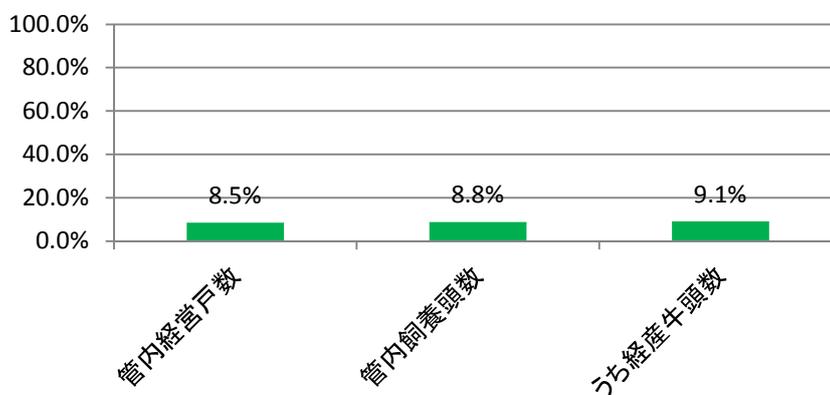
(単位:戸・頭・羽、%)

区分	H21	H22	H23	H24	H25	前年比	県内占有率
管内経営戸数	20	19	18	15	14	93.3%	8.5%
管内飼養頭数	943	896	1,002	888	867	97.6%	8.8%
うち経産牛頭数	687	693	627	610	602	98.7%	9.1%
県内経営戸数	210	190	180	170	164	96.5%	
県内飼養頭数	10,964	10,724	10,653	9,722	9,833	101.1%	
うち経産牛頭数	7,139	6,911	6,658	6,679	6,623	99.2%	

資料:県畜産課調べ
※管内は鳥取市及び岩美町



県内占有率(H25乳用牛)



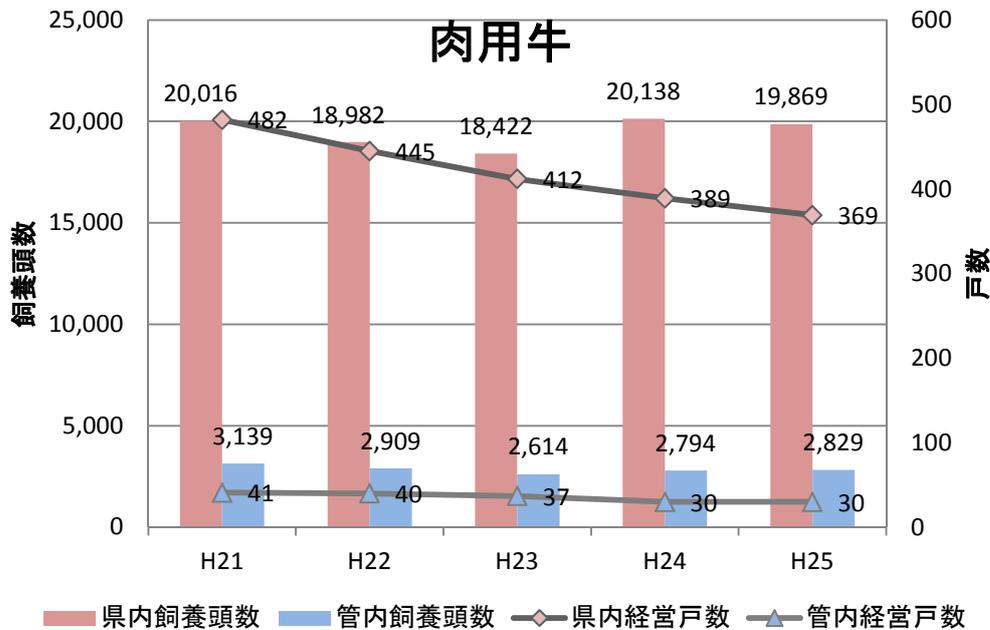
8 肉用牛

繁殖経営は全県で10戸減少し274戸、飼養頭数はやや減少し3,163頭。管内では横ばいで14
 一貫経営は全県で5戸減少し39戸、飼養頭数はやや増加し5,057頭。管内は1戸減少し7戸。
 肥育経営は全県で5戸減少し54戸、飼養頭数も減少し11,217頭。管内では1戸増加し9戸。

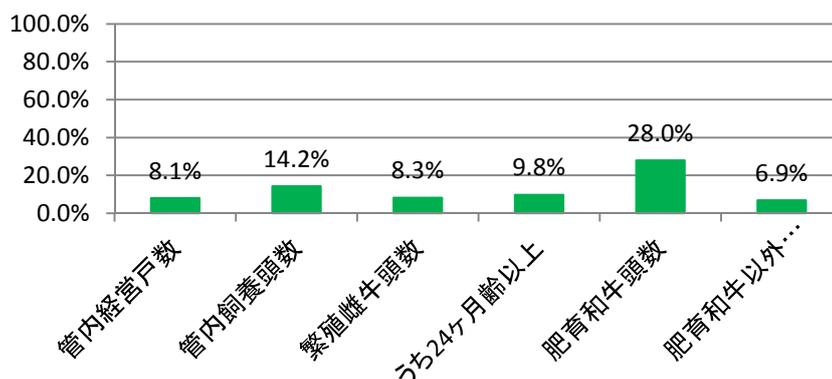
(単位:戸、頭・羽、%)

区分	H21	H22	H23	H24	H25	前年比	県内占有率
管内経営戸数	41	40	37	30	30	100.0%	8.1%
管内飼養頭数	3,139	2,909	2,614	2,794	2,829	101.3%	14.2%
繁殖雌牛頭数	393	365	373	344	353	102.6%	8.3%
うち24ヶ月齢以上	358	323	314	241	250	103.7%	9.8%
肥育和牛頭数	1,881	1,697	1,694	1,781	1,854	104.1%	28.0%
肥育和牛以外頭数	861	737	550	669	622	93.0%	6.9%
県内経営戸数	482	445	412	389	369	94.9%	
県内飼養頭数	20,016	18,982	18,422	20,138	19,869	98.7%	
繁殖雌牛頭数	3,265	3,160	3,141	4,156	4,246	102.2%	
うち24ヶ月齢以上	2,904	2,728	2,827	2,585	2,559	99.0%	
肥育和牛頭数	7,727	6,969	7,295	6,639	6,626	99.8%	
肥育和牛以外頭数	9,024	8,743	7,986	9,343	8,997	96.3%	

資料:県畜産課調べ
 ※管内は鳥取市及び岩美町



県内占有率(H25肉用牛)



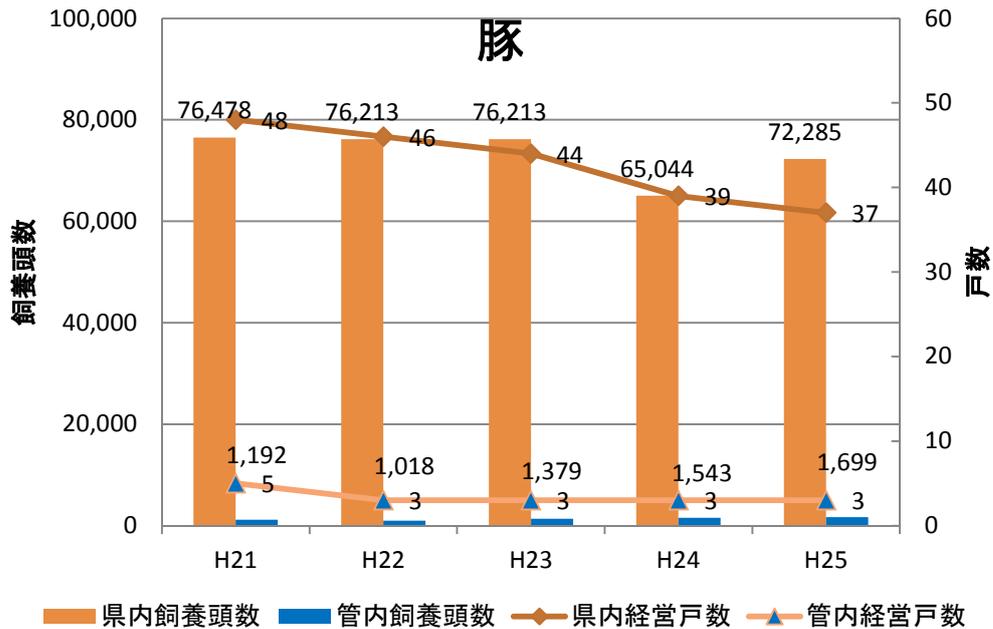
9 豚

全県では経営戸数は2戸減少したが、飼養頭数は増加。一方、管内戸数は横ばいで、飼育頭数は増加。

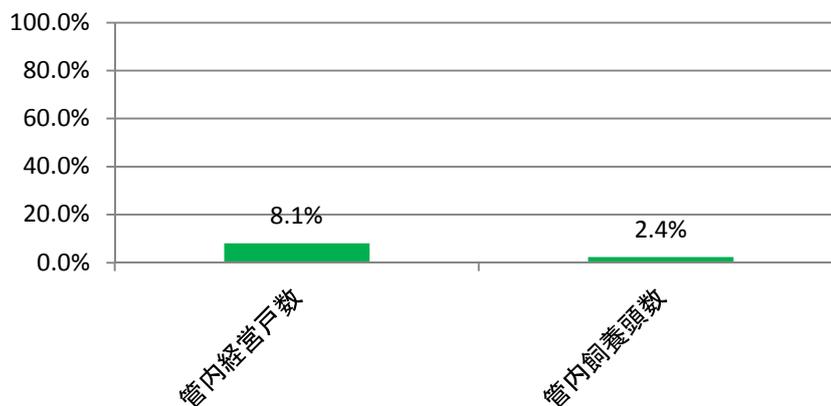
(単位:戸、頭・羽、%)

区分	H21	H22	H23	H24	H25	前年比	県内占有率
管内経営戸数	5	3	3	3	3	100.0%	8.1%
管内飼養頭数	1,192	1,018	1,379	1,543	1,699	110.1%	2.4%
県内経営戸数	48	46	44	39	37	94.9%	
県内飼養頭数	76,478	76,213	76,213	65,044	72,285	111.1%	

資料:県畜産課調べ
※管内は鳥取市及び岩美町



県内占有率(H25 豚)



10 鶏

採卵経営は、全県で1戸減少で飼養羽数も減少。管内では県内飼養採卵鶏の70%弱を占め、10万羽以上の大規模経営体が目立つ。戸数は横ばいの5戸で飼養羽数は減少。

肉用鶏経営は、全県で1戸減少したが、飼養羽数は増加。管内では飼育戸数は横ばいで鳥取地どり生産農家2戸、飼養羽数は増加。今後も県内の地どりの需要は高く、生産の中核を担う農場と専用の食鳥処理場を設置したことから、さらに飼養羽数は増加見込み。

(単位:戸・頭・羽、%)

区分	H21	H22	H23	H24	H25	前年比	県内占有率
管内経営戸数	5	5	6	7	7	100.0%	8.4%
管内飼養頭数	484,171	459,291	447,882	435,253	407,811	93.7%	10.1%
うち採卵鶏羽数	484,051	458,503	446,303	434,291	406,013	93.5%	67.8%
うち種鶏羽数	0	0	0	0	0	-	0.0%
うち肉用鶏羽数	872	788	1,579	962	1,798	186.9%	0.1%
県内経営戸数	93	87	86	85	83	97.6%	
県内飼養頭数	3,245,149	3,065,730	3,645,761	3,563,744	4,020,286	112.8%	
うち採卵鶏羽数	723,632	686,322	667,162	648,059	599,084	92.4%	
うち種鶏羽数	130,500	119,500	144,900	150,220	145,597	96.9%	
うち肉用鶏羽数	2,375,772	2,259,908	2,833,699	2,765,465	3,275,605	118.4%	

資料: 県畜産課調べ
※管内は鳥取市及び岩美町

